

これまでのとりくみ

【教育目標】

「進んで学ぶ子ども」「思いやりのある子ども」「がんばる子ども」の育成

【重点的な取組み】

学力向上:すべての子どもたちの可能性を引き出すため、『個別最適な学びと協働的な学びの実現』をめざす。その実現のためのツールとして、タブレットと紙ベースの本の活用のありかたを研究し、実践を深めていく。

人権教育:学校、家庭、地域住民が連携し、子どもたちが自分の人権を守り、他の人の人権を守ろうとする心の育成と、行動に移す実践力を養う。

生徒指導:教職員は、日頃の子どもたちの様子をきめ細かく観察し、心に寄り添った指導を行う。また、外部人材なども含めた組織的な対応を行い、幅広い角度からの生徒指導の充実を図る。

全国学力・学習状況調査の結果より

【国語】

- ・ 自分の考えを相手に伝えるために、資料などを活用することができる一方で、目的に応じて日常生活の中から話題を決め、伝える内容を整理したり、検討したりすることに、課題がある。
- ・ 事実と感想、意見とを区別して書くなど、書き表し方を工夫して記述することに、課題がある。

【算数】

- ・ 「かける数が〇倍になると、答えも〇倍になる。」という、かけ算の性質を活かして計算の仕方を考え、求め方と答えを、式や言葉を用いて記述することについて、良好な結果である。
- ・ 角柱や球の性質を理解するとともに、自分の導き出した答えの理由を言葉と数を用いて記述することについて、良好な結果である。
- ・ わり算では、わる数が小数である場合の計算や、わる数と答えの大きさの関係理解に、課題がある。

【児童質問紙】

- ・ 「学校に行くのは楽しい」など、学校生活に関する質問について、良好な結果である。
- ・ 学習の中で、PC・タブレットの利活用に関する質問について、良好な結果である。
- ・ 個別最適な学習と協働的な学習の充実に関する質問について、良好な結果である。
- ・ 子どもたちが主体的に学ぶ姿勢に関する質問について、課題がある。
- ・ 休日での家庭での学習時間に関する質問について、課題がある。

これからのとりくみ

- ・ 日頃の授業において、資料を活用しながら自分の伝えたい内容を整理し、文章にまとめる機会をさらに増やす。
- ・ 算数での記述式問題の正答率が高いことから、学校図書館の活用等を進め、語彙を増やしながらか『表現力の育成』をめざしていく。
- ・ 多くの資料から必要な情報を根拠とし、『自分の考えを説明する力の育成』をめざしていく。
- ・ 子どもたちが学びの主体者となれるための、授業展開の工夫や研究をさらに進める。

【児童質問紙】

- ・ 子どもたちの困り感を把握し、必要に応じて全校児童でも共有したり考えたりする場を設ける。
- ・ 子どもたちの学校での様子を家庭と共有しながら、一層の連携強化を図る。
- ・ 児童の豊かな心の育成に向け、教職員・家庭・地域住民が一丸となって取り組む校区の風土創りを進める。